

2023年度 環境経営レポート

対象期間

2023年2月1日 ～ 2024年1月31日



2024年5月1日発行

認証番号0012695

目 次

項 目	ページ
ごあいさつ	3
環境経営方針	3
組織の概要	4
事業・施工例の紹介	4
環境経営組織図及び役割・責任・権限表	5
主な環境負荷の実績	6
環境経営目標及びその実績	7
環境経営計画の取組結果とその評価	8～14
環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果, 並びに違反, 訴訟等の有無	15
緊急事態対応訓練・安全大会	16
代表者による全体の評価と見直し・指示	17



□ごあいさつ

弊社は創業以来半世紀にわたってお客様のご支援を賜り、関西地方を中心として、上下水道の電気設備工事一筋に取り組んでまいりました。従来より水道事業に携わり、公益的サービスの一端を担い環境保全に寄与してまいりましたが、企業継続の観点から経済性を重視してまいりました。

しかし、昨今の地球温暖化問題を重く捉え、経済性と同時に環境に対する積極的な貢献を重視しなくてはならないと考え取組みを開始しました。企業の継続は地球の健全な環境がなくては成り立たないことは明白であり、次世代に継続するためには欠かせないことである認識をし、意識付けをしていきたいと考えています。

その観点から、建設リサイクル法の順守およびグリーン調達の推進、廃棄物の減量化及び分別化による適正処分、省エネ対策に取り組んでまいります。

我々は電気設備工事を通じて地球環境を健全にし、持続させることの一端を担う企業づくりを進めてまいります。

環境経営方針

“プラント設備を中心とした電気工事を行う中で環境に配慮した方法で事業を進められる企業とする”

<環境経営理念>

近年、夏場の気温上昇や短時間の集中豪雨など未曾有の異常気象や災害が頻繁に起こっています。私たちの大切な家族、その子孫がいつまでも幸せにこの地球で暮らしていくために、弊社では、環境問題を念頭においた身近な行動が二酸化炭素削減などの地球温暖化問題への取組みに繋がる、ということを意識しています。

本業である電気設備工事を通じて、今後も持続する地球を目指して環境活動に自主的に取り組みます。企業内外での活動において、二酸化炭素排出量の削減、廃棄物の縮減・排出後の再資源化への取組、節水に留意する、建設資材に再資源材を取り入れるなど、地域及び地球環境に与える影響に配慮し、可能な限り実践し、継続的に環境負荷の低減に取り組んでいきます。

<環境保全への行動指針>

1. 環境関連法規制や当社が約束したことを遵守します。
2. 創意工夫による省エネルギーにより二酸化炭素排出量の削減に努めます。
3. 社用車の燃料使用量の削減に努めます。
4. 電力使用量削減に努めます。
5. 廃棄物の削減及び建設副産物のリサイクル率の向上に努めます。
6. 節水活動により水使用量の削減に取り組みます。
7. グリーン購入の推進に努めます。
8. 環境に配慮した工事に努めます。
9. エコ活動を通じて明るく活気のある職場づくりを推進します。

制定日：2018年8月1日

改訂日：2019年4月1日

代表取締役社長 市川 学

□組織の概要

更新日：2024年1月31日

- (1) 名称及び代表者名
株式会社ミテック
代表取締役 市川 学
- (2) 所在地
本 社 大阪府東大阪市高井田西1丁目3番31号
三重支店 三重県四日市市西浦2丁目11番1号
東京営業所 東京都港区高輪4丁目23番4号
- (3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先
責任者 取締役 市川 さくら TEL: 06-6784-0770
担当者 工事部 市川 優貴
- (4) 事業内容
電気工事業
- (5) 事業の規模
売上高 151,953 万円 (2023年度実績)
- | | | | | |
|---------------------------------|-----------------------|-----------------------|----------------------|-----------------------|
| | 本 社 | 三重支店 | 東京営業所 | 合計 |
| 従業員 名 | 25 名 | 9 名 | 1 名 | 35 名 |
| 延べ床面積 m ² | 716.97 m ² | 226.64 m ² | 58.29 m ² | 1001.9 m ² |
- ※従業員数について、東京営業所の従業員は三重支店と兼任のため
合計は延べ人数となっております。
- (6) 事業年度 2 月 1 日 ~ 1 月 31 日

□認証・登録の対象組織・活動

登録組織名： 株式会社ミテック
対象事業所： 本 社
 三重支店
 東京営業所
対象： 全組織
活動： 電気工事業

□事業や施工例の紹介

<主な事業>

- ・プラント設備工場施設
- ①浄水場・下水処理場
- ②半導体製造工場
- ・高速道路、トンネルなどの受変電設備
- ・公共建築物の電気工事
- ・太陽光発電システム



<2023年度の主な施工事例>



①津守下水処理場
監視制御設備外機能追加工
事



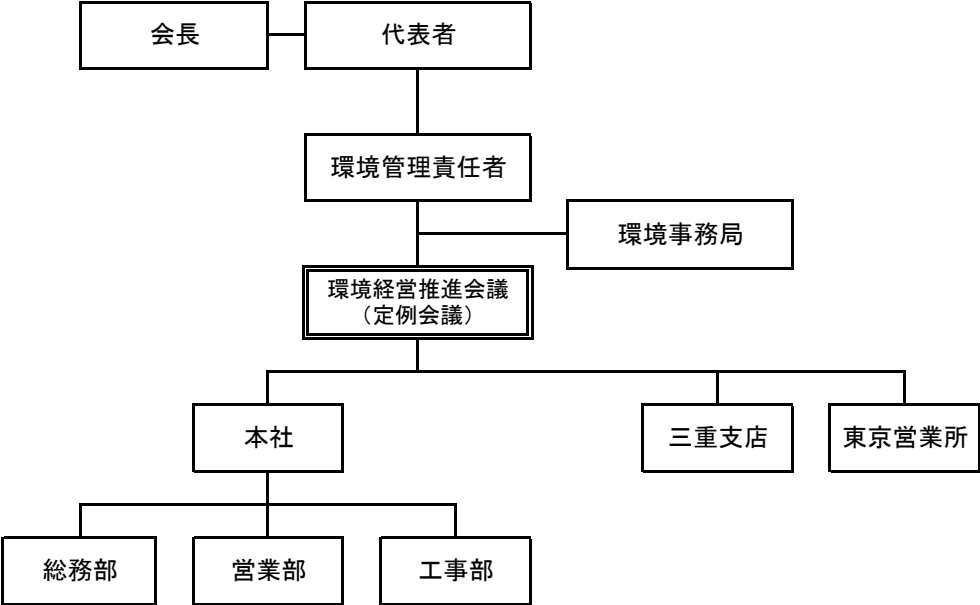
②阪神高速道路
変電塔設備補修工事



③キオクシア四日市工場
特高受変電設備工事



④加賀東芝
電気設備工事



	役割・責任・権限
代表者（社長）	・環境経営に関する統括責任 ・環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間等経営資源を準備 ・環境管理責任者を任命 ・環境経営方針の策定・見直し ・環境経営目標・環境経営計画書を承認 ・代表者による全体の評価と見直し、指示 ・環境経営レポートの承認
環境管理責任者	・環境経営システムの構築、実施、管理 ・環境関連法規等の取りまとめ表を承認 ・環境経営目標・環境経営計画書を確認 ・環境活動の取組結果を代表者へ報告 ・環境経営レポートの確認
環境事務局	・環境管理責任者の補佐、環境経営推進会議（定例会議）の事務局 ・環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施 ・環境経営目標、環境経営計画書原案の作成 ・環境活動の実績集計 ・環境関連法規等取りまとめ表の作成及び最新版管理 ・環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施 ・環境関連の外部コミュニケーションの窓口 ・環境経営レポートの作成、公開（事務所に備付けと地域事務局への送付）
環境経営推進会議（定例会議）	・環境経営計画の審議 ・環境活動実績の確認・評価
部門長（部長）	・自部門における環境経営方針の周知 ・自部門の従業員に対する教育訓練の実施 ・自部門に関連する環境活動計画の実施及び達成状況の報告 ・時部門に必要な手順書の作成及び手順書による実施 ・自部門の想定される事故及び緊急事態への対応のための手順書作成 ・試行・訓練を実施、記録の作成 ・自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施
全従業員	・環境方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 ・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

□主な環境負荷の実績(事業所・現場合計 ※下記①と②の合計)

*一般廃棄物のみ2018年度を基準年とする

項 目	単位	2017年(基準年)	2020年	2021年	2022年	2023年
二酸化炭素総排出量	kg-CO ₂	111,509	231,632	108,600	93,179	85,217
廃棄物排出量		17,331	76,798	138,205	31,328	6,037
一般廃棄物排出量	kg	732*	667	675	666	677
産業廃棄物排出量	kg	17,331	76,131	137,530	30,662	5,360
総排水量	m ³	283	314	301	274	317

※(基準年)二酸化炭素排出係数 0.493 kg-CO₂/kWh(関西電力2016年度)

※(2023年)二酸化炭素排出係数 0.434 kg-CO₂/kWh(関西電力2022年度)

いずれも調整後の係数 0.459 kg-CO₂/kWh(中部電力2022年度)

※元請現場の工事内容により電力使用量が大きく左右されるため、2020年度より、大阪三重の事業所と区別して比較します。

※二酸化炭素総排出量には灯油とLPG使用分の332kg-CO₂が含まれます。

①主な環境負荷の実績(事業所:大阪本社、三重支店小計)

*一般廃棄物のみ2018年度を基準年とする

項 目	単位	2017年(基準年)	2020年	2021年	2022年	2023年
二酸化炭素総排出量	kg-CO ₂	110,357	106,439	105,071	91,261	85,217
廃棄物排出量		5,221	7,367	8,185	3,276	6,037
一般廃棄物排出量	kg	732*	667	675	666	677
産業廃棄物排出量	kg	5,221	6,700	7,510	2,610	5,360
総排水量	m ³	283	314	301	274	317

※(基準年)二酸化炭素排出係数 0.493 kg-CO₂/kWh(関西電力2016年度)

※(2023年)二酸化炭素排出係数 0.434 kg-CO₂/kWh(関西電力2022年度)

いずれも調整後の係数 0.459 kg-CO₂/kWh(中部電力2022年度)

※二酸化炭素総排出量には灯油とLPG使用分の332kg-CO₂が含まれます。

②主な環境負荷の実績(工事現場小計)

※2023年度は稼働している元請工事はありませんでした

項 目	単位	2017年(基準年)	2020年	2021年	2022年	2023年
二酸化炭素総排出量	kg-CO ₂	1,152	125,193	3,530	1,918	0
廃棄物排出量		12,110	69,431	130,020	28,052	0
一般廃棄物排出量	kg	-	-	-	-	-
産業廃棄物排出量	kg	12,110	69,431	130,020	28,052	0
総排水量	m ³	-	-	-	-	-

※(基準年)二酸化炭素排出係数 0.493 kg-CO₂/kWh(関西電力2016年度)

※(2023年)二酸化炭素排出係数 0.434 kg-CO₂/kWh(関西電力2022年度)

いずれも調整後の係数 0.459 kg-CO₂/kWh(中部電力2022年度)

※総排水量は工事現場では負担しないため
“-”記載となっております。

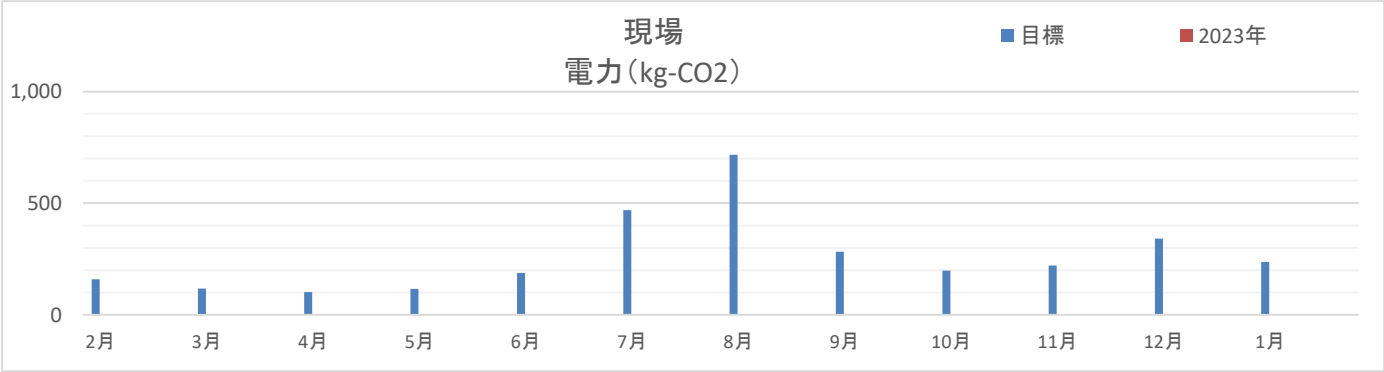
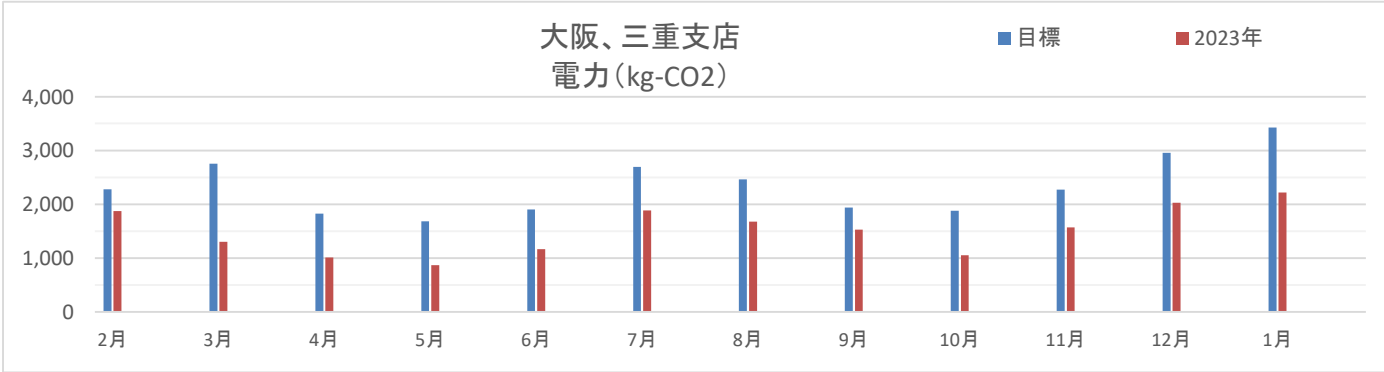
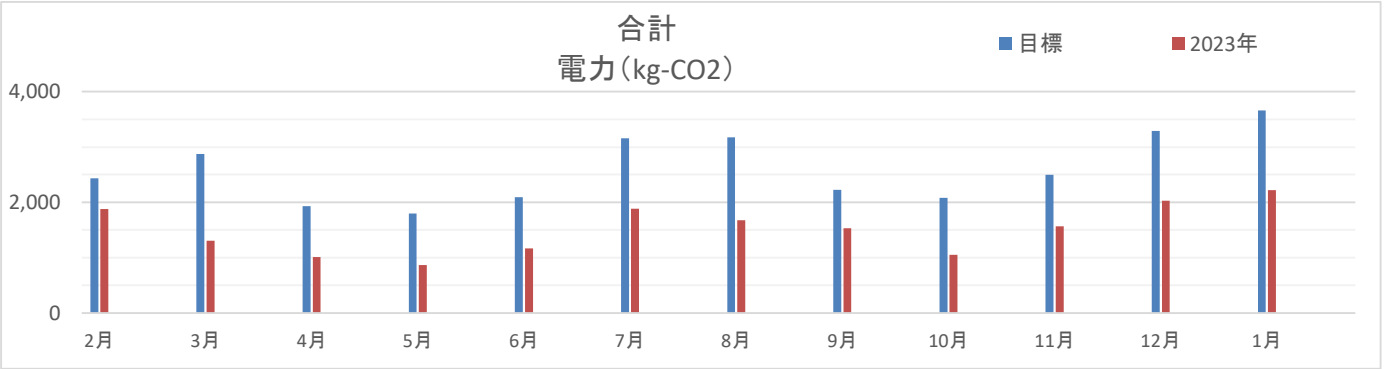
□環境経営目標及びその実績

年 度		2017年(基準年)	2023年		評 価	2024年	2025年	2026年
項 目		(基準値)	(目標)	(実績)		(目標)	(目標)	(目標)
電力による二酸化炭素削減 ＜合計＞	kg-CO2	33,032	31,215	18,181	○	31,050	30,885	30,720
	基準年度比	2017年	94.5%	55%		94.0%	93.5%	93.0%
電力による二酸化炭素削減 ＜事務所(大阪本社+三重支店)＞	kg-CO2	29,702	28,068	18,181	○	27,920	27,771	27,623
	基準年度比	2017年	94.5%	61%		94.0%	93.5%	93.0%
電力による二酸化炭素削減 ＜工事現場＞	kg-CO2	3,330	3,147	0	○	3,130	3,114	3,097
	基準年度比	過去3年間平均	94.5%	0%		94.0%	93.5%	93.0%
自動車燃料による二酸化炭素削減 ＜ガソリン、軽油＞	kg-CO2	80,489	78,477	66,704	○	78,074	77,672	77,269
	基準年度比	2017年	97.5%	82.87%		97.0%	96.5%	96.0%
上記二酸化炭素排出量合計 kg-CO2		113,521	109,692	84,885	/	109,124	108,557	107,989
一般廃棄物の削減	kg	732	685	677	○	681	678	674
	基準年度比	2018年	93.5%	92%		93.0%	92.5%	92.0%
産業廃棄物の削減 ＜合計＞	kg	81,055	76,597	5,360	○	76,597	76,192	75,786
	基準年度比	2017年	94.5%	7%		94.5%	94.0%	93.5%
産業廃棄物の削減 ＜事務所(大阪本社+三重支店)＞	kg	5,221	4,933	5,360	×	4,933	4,907	4,881
	基準年度比	2017年	94.5%	103%		94.5%	94.0%	93.5%
産業廃棄物の削減 ＜工事現場＞	kg	75,834	71,663	0	○	71,663	71,284	70,905
	基準年度比	過去3年間平均	94.5%	0%		94.5%	94.0%	93.5%
水道水の削減	m ³	283	275	317	×	275	273	272
	基準年度比	2017年	97.0%	112%		97.0%	96.5%	96.0%
グリーン購入の推進	事務用品や消耗品、オフィス家具など、グリーン購入が可能なものは積極的にしており、今後も継続していく。							
環境に配慮した工事の推進	顧客の意向や予算など、可能な限り、材料に再利用できるものやグリーン購入適合品を使う。また、発生した残材についてはリサイクル業者にて買い取ってもらう。							
エコ活動を通じ活気のある職場づくりの推進	毎月実施の『環境経営推進会議』にて、積極的な意見交換を行う。							

※工事現場の規模により電力使用量・産業廃棄物量の変動が激しいため、工事現場における『電力による二酸化炭素削減』および『産業廃棄物の削減』項目に限り、過去3年間(2020～2022年度)の実績の平均値を基準値として設定しています。

□環境経営計画の取組結果とその評価

数値目標:○達成 ×未達成	
活動:◎よくできた ○まあまあできた △あまりできなかった ×全くできなかった	
電力による二酸化炭素削減	達成状況
数値目標	○
・空調(温度:冷28℃・暖20℃、電源ON/OFF)の適正使用	△
・空調フィルター清掃の定期的な実施	○
・ブラインド、観葉植物で熱を調節しエアコンの負担を軽減	○
・昼休憩、定時前後の不要箇所消灯	○
・OA機器等の消費電力削減に繋がる適正使用	○
取組結果とその評価、次年度の取組内容	
今年度は稼働している元請工事が無かったため、工事現場の負荷が0になっている。今年の夏も猛暑日が続き、空調の温度を下げざるを得ない状況の時もあったが、クールビズやブラインドによる断熱、お昼休みは全フロアの照明を消灯するなど工夫をして電力消費削減に努めた。また、太陽光発電設備を設置してから一年が経ち、年間の電力消費量をを設置前と比較すると下がっており、再生可能エネルギーの使用による環境への貢献を実感することができた。	



合計	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月
目標	2,434	2,872	1,929	1,799	2,090	3,159	3,176	2,222	2,080	2,495	3,296	3,662
2023年	1,875	1,305	1,011	867	1,168	1,882	1,675	1,530	1,051	1,567	2,028	2,220
大阪三重	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月
目標	2,275	2,755	1,827	1,683	1,902	2,691	2,459	1,939	1,882	2,274	2,955	3,425
2023年	1,875	1,305	1,011	867	1,168	1,882	1,675	1,530	1,051	1,567	2,028	2,220
現場	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月
目標	159	117	102	116	188	468	717	283	198	222	341	236
2023年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

太陽光発電システム☀



三重支店(2022年1月設置)



大阪本社(2022年10月設置)

発電した電力について
大阪本社は社内使用、
三重支店は社内使用
および余剰分は売電
としています

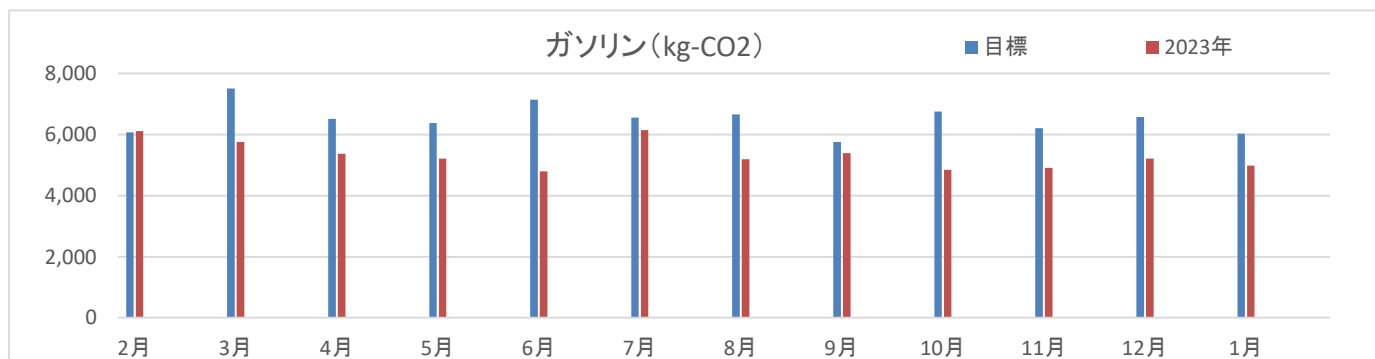


大阪本社には、
リチウムイオン蓄電システムを
設置しています

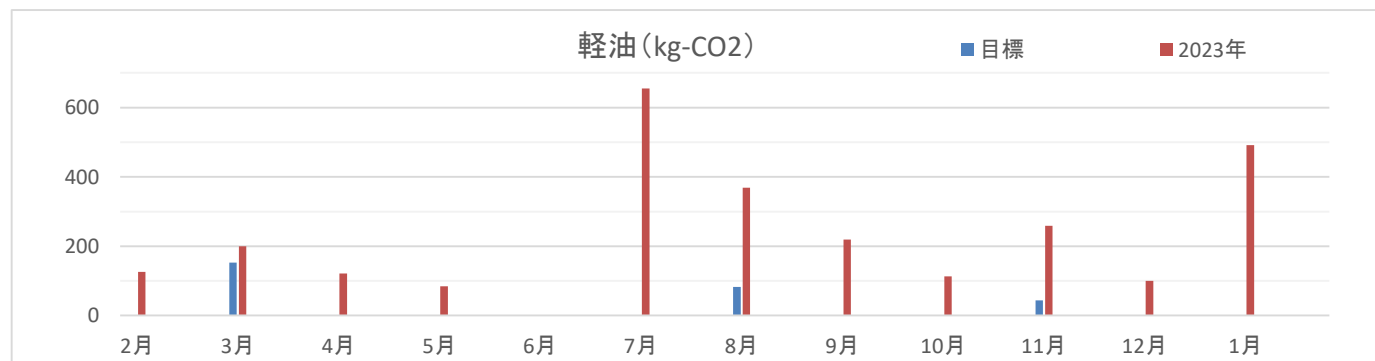
発電量実績(単位:kWh)

2023年	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月
大阪	536	751	829	1,073	826	1,164	1,068	809	668	464	403	421
三重	447	626	691	894	688	970	890	674	557	387	336	351

自動車燃料による二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
数値目標	○	ガソリンについては2月を除いて全ての月で目標を下回ることができた。今年は稼働している現場が少なかったので現場への行き来が例年に比べて減っていることもガソリン使用料を抑えられた要因の一つであるが、日々の社員によるエコドライブの積み重ねが大きいと感じる。一方軽油は工事現場へ資材を運搬するためのトラックの使用によるものであり必要不可欠であるが、使用頻度を見直し効率的な使用を呼びかけていく。また、今後社用車を乗り換える際はEV車もしくはハイブリッド車の取り入れを検討する。
・エコドライブの徹底、相乗りの促進	○	
・日常的な車両点検の実施	○	
・最低限の車両利用(徒歩、自転車の活用)	△	
・不要な荷物を積載したままにしない	△	



	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月
目標	6,077	7,513	6,517	6,378	7,142	6,559	6,664	5,764	6,761	6,214	6,576	6,033
2023年	6,112	5,763	5,371	5,214	4,796	6,154	5,197	5,389	4,846	4,915	5,219	4,988



	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月
目標	0	153	0	0	0	0	83	0	0	44	0	0
2023年	126	200	121	85	0	655	369	219	114	259	101	492

電気自動車の導入(2021年)



クリーンディーゼル車の導入(2018年)

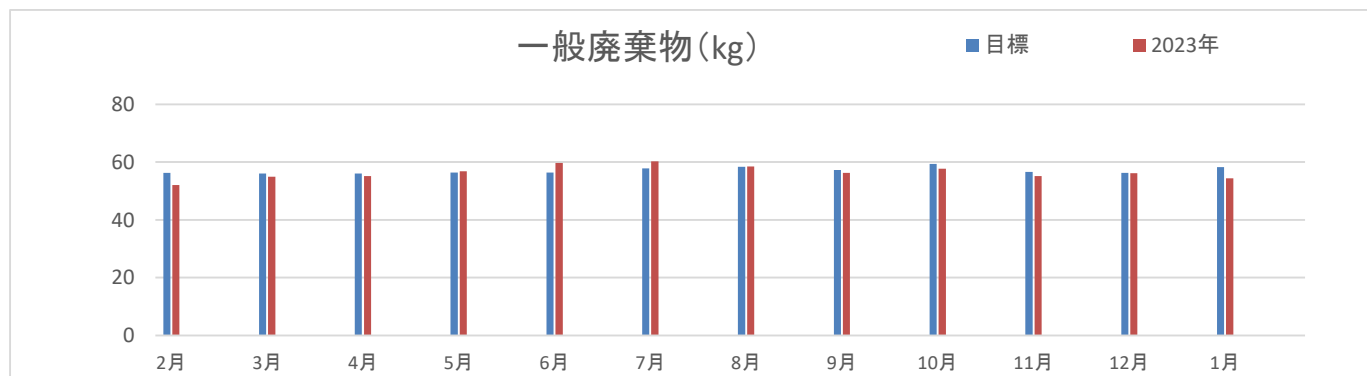


車内にエコドライブ掲示



本社と三重支店の駐車場付近に電気自動車用の充電コンセントを設置しています

一般廃棄物の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
数値目標	○	今年度は社内にいる人数が例年よりも多かったため、必然的に一般ごみの量も増えている。そのような状況の中でも、社員一人ひとりによる、ごみの削減・分別・圧縮を努め大幅な増量を抑えられた。今後も不要な印刷物を減らすこと、詰め替え可能な商品を選択するなどを実践し日頃の小さなことからごみの削減へと繋げていく。
・ごみ分別(古紙リサイクル)の徹底	○	
・簡易包装された商品の購入	○	
・書類のペーパーレス化	△	
・使い捨て製品の購入・使用削減	○	
・ゴミの圧縮化	○	



	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月
目標	56	56	56	56	56	58	58	57	59	57	56	58
2023年	52	55	55	57	60	60	58	56	58	55	56	54



一般廃棄物の
分別回収

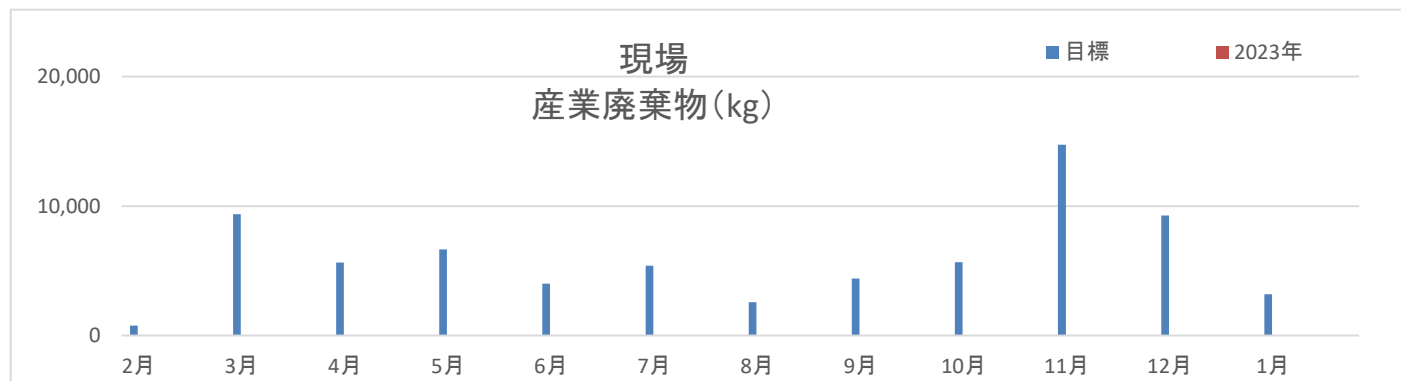
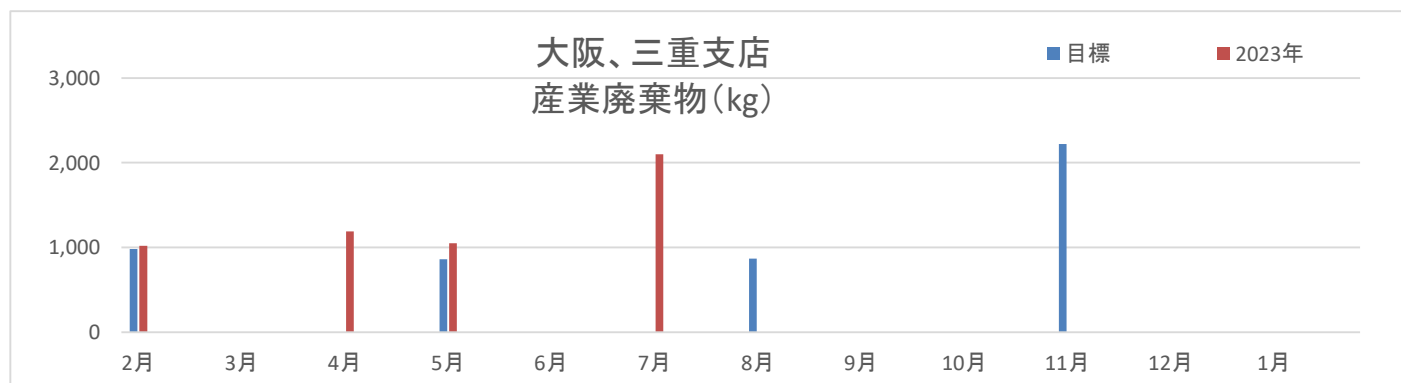
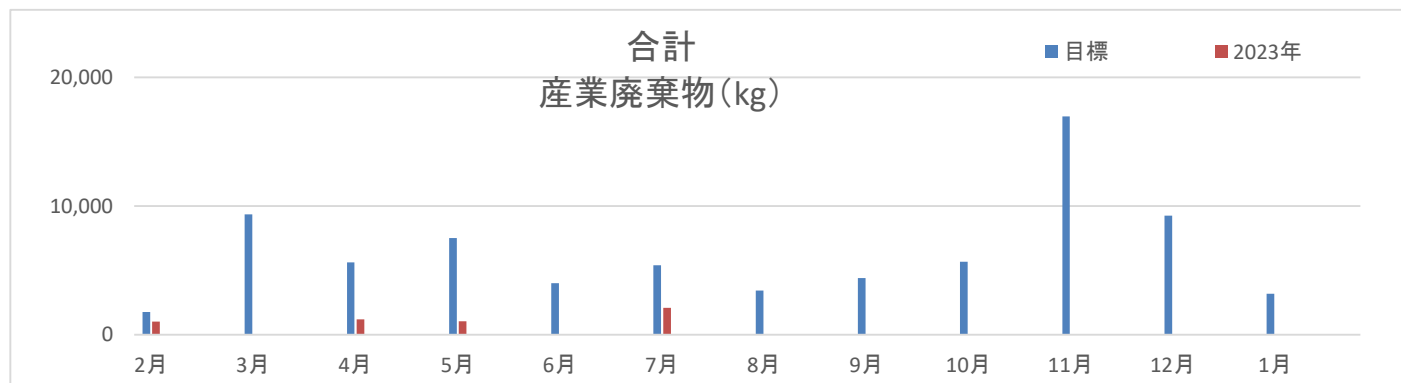


マイコップの活用



給与明細の
ペーパーレス化

産業廃棄物の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
数値目標	○	2月4月7月は大阪本社、5月は三重支店の数値となっている。三重支店については年に1回の回収で済んだ。本社については社屋の修繕と倉庫整理を行ったため主に7月の廃棄物量が大幅に多くなっている。日頃から倉庫の在庫管理を最適化し、無駄な製品や資材の購入を避けることを徹底していく。また、段ボール箱や容器などの再使用可能な資材を繰り返し使用する。
・リサイクル業者の開拓	○	
・作業ミス等による再工事による廃棄量増加の防止	△	
・シュレッダーの適正使用と廃紙の再利用	○	
・複合機カートリッジ回収ルートの利用	○	



合計	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月
目標	1,758	9,362	5,631	7,519	4,010	5,393	3,444	4,407	5,667	16,963	9,261	3,182
2023年	1,020	0	1,190	1,050	0	2,100	0	0	0	0	0	0
大阪三重	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月
目標	983	0	0	860	0	0	869	0	0	2,221	0	0
2023年	1,020	0	1,190	1,050	0	2,100	0	0	0	0	0	0
現場	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月
目標	775	9,362	5,631	6,659	4,010	5,393	2,575	4,407	5,667	14,742	9,261	3,182
2023年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0



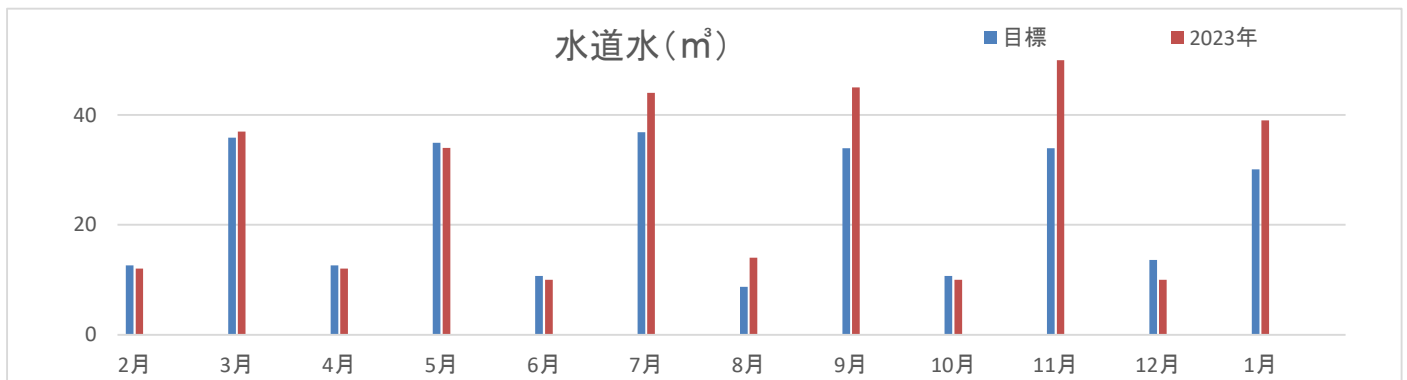
大阪本社
産業廃棄物保管場所



工事現場
産業廃棄物保管場所



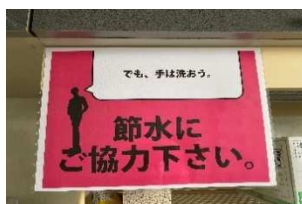
水道水の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
数値目標	×	目標値を上回る結果となった。今年度は社内にいる社員が例年よりも多かったことと、8月にホースを使い社屋の清掃を行ったため、本社の水道使用量が大幅に増えている。毎朝の植栽の水やりは貯めた雨水を使用するなど今後工夫をしながら節水を努める。
・節水啓発掲示物を貼り、節水の呼びかけを行う	○	
・洗い物、洗車、トイレなど節水の励行を行う	△	
・散水用・清掃用のホースの先にストッパーをつける	○	
・水道配管からの漏水を定期的に点検している	○	



	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月
目標	13	36	13	35	11	37	9	34	11	34	14	30
2023年	12	37	12	34	10	44	14	45	10	50	10	39



社内節水ポスターの掲示



節水型省エネ型
洗濯乾燥機の使用



ストッパー付き
散水用ホースの使用



グリーン購入の推進	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
・再生資源の積極的利用に取り組む	○	引き続き社内の備品はグリーン製品を積極的に取り入れている。購入の前に必要性を十分に考え、無駄の無いよう必要な分だけ購入するようにしている。また、今後社内の照明はすべてLED照明に切り替えていく予定である。
・省エネ性能の高い電気製品の購入	○	
・低燃費自動車や電気自動車の採用	○	
・事務用品、消耗品、用紙などグリーン購入の推進	○	
・LED照明への転換	△	
・オフィス家具、作業服などグリーン購入対象品を検討	○	



省エネ家電の使用

再生紙を使用した
コピー用紙
トイレトーパー
ペーパータオルの購入



低燃費自動車、
ハイブリッド車の導入

環境に配慮した工事の推進	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
・ICT活用など工事の効率化によるエネルギー消費の抑制	○	主に元請現場では情報共有システムを活用し工事書類の作成や受け渡しをシステム上でやっている。客先に提示する資料の要求もあり完全なペーパーレス化は実現できないが、保存する工事資料などについてはデータによるサーバーへの保存と共有を積極的に進めている。弊社手配の材料に関しては、エコケーブルなどグリーン調達を行っている。
・現場事務所等建物内の空調や照明、OA機器類、水の使用の適正化	○	
・資材発注時に残余資材が最小限となるよう適正管理	○	
・混合廃棄物をなるべく分別し、リユース、リサイクルする	○	
・素材別ボックスの設置	○	
・グリーン調達(エコケーブル等)の使用	○	



「二十年間無災害賞」としてお客様より
賞状と楯をいただきました



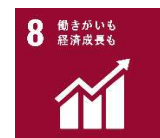
エコケーブルの購入



大阪市より優良成績認定をい
ただきました



エコ活動を通じ活気のある職場づくりの推進	達成状況	取組結果とその評価、次年度取組内容
・『環境経営推進会議』の実施	○	エコアクション21の認証をいただいてから数年が経ち、社員のエコに対する意識も向上していると感じる。可能な限り階段を使用する、徒歩圏内へは車を利用しないようにするなど環境活動を通じて健康増進へとつながっており良い傾向となっている。
・事業活動とエコ活動を両立させる取組や注意喚起により気づきを増やす	○	
・業務中に取り組んでいるエコ活動が各家庭へ良い影響を与える	○	



□環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟の有無

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りです。

適用される法規制	適用される事項(施設・物質・事業活動等)
廃棄物処理法	一般廃棄物・産業廃棄物の適切な排出、運搬・処理の業者への委託、行政への報告書提出等
建設リサイクル法	建設資材の分別解体、再資源化、建設副産物促進
家電リサイクル法	特定家庭用機器(エアコン、洗濯機、テレビ、冷蔵庫)の適切な排出
フロン排出抑制法	業務用空調機の適切な排出
顧客要求事項	品質管理、安全施工の実施
グリーン購入法	環境物品、再利用製品の活用

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていました。

なお、違反、訴訟等も過去3年間ありませんでした。



□緊急事態対応訓練



本社定例会議にて、火災対応手順書を確認しながら、会社で火災が起きた時の安全で適切な処置について話し合った。また、新入社員が加わったことにより改めて社内の消火器設置場所の確認と消火器の使い方を説明した。各自、火災発生時の役割を把握し、火災発生確認から消防へ通報するまでの模擬練習を行った。

緊急事態の想定： 火災が発生	
■実施日： 2023/6/16 18:30～19:00	■実施場所： 大阪本社5階会議室
■参加者： 当日会議に出席した社員 ※当日不参加者、三重支店へは議事録と配布資料をメールにて配信	■実施内容： 火災対応手順書の確認 社内連絡の模擬練習、消火器の使い方 手順書の変更の必要性 ☐ あり ☒ なし
■実施状況の様子(配布資料一部抜粋)	

様式：11-01 (11. 環境上の緊急事態への準備及び対応)

承認	作成

株式会社ミトテック
火災対応手順書

制定：2019年10月31日

目 的 火災が発生しないように予防を行う。火災発生の場合、緊急対応を適切に行うことにより、従業員と近隣住民の安全及び火災による環境汚染を防止する。

NO	作業手順	ポイント
0 (予備)	① 火災が発生しないように予防を行う。火災発生の場合、緊急対応を適切に行うことにより、従業員と近隣住民の安全及び火災による環境汚染を防止する。 ② 火災発生時の連絡を受ける人は、(1)社内放送で火災場所と非難要請を伝達する。 ③ 消防署へ通報し、火災の状況を連絡する。	・風機スペースで吸塵入れには水を入れておく。 ・消火器の点検では、置き場所の確認、有効期限も確認する。 ・消火器は離れたところからすくつかんがように表示を行う
1 (社内連絡)	① 発見者は大声で火災発生を連絡する。 ② 電話で内線30・31番(総務部)へ掛け火災発生を告げる。 ③ 火災発生時の連絡を受けた人は、(1)社内放送で火災場所と非難要請を伝達する。 ④ 消防署へ通報し、火災の状況を連絡する。	総務部 消防署 内線 30・31番 119番 放送…総務部から指示を受けた存在している社員 消防署への通報…総務部
2 (消火活動)	① 近くに消火器がある場合は元栓を止める。 ② 社員は近くの消火器を持って現場に駆けつけ、消火作業を行う。その際、無断な判断をしないこと。	(初期消火) 本社：ガス無し、他支店営業所：あり ・水や消火器等により消火活動を行う ・火が天井にまで燃え移っていたら消火を諦める
3 (避難・誘導)	① 部門長は各部署の出入り口又は非常口に誘導する。	・エレベーターを使用しない ・煙を吸い込まないようハンカチなどで口を抑え、姿勢を低くして一気に走り抜ける ・一度外に出たら再び中へは戻らない
4 (警備)	① 総務部員は消防署の到着時現場に案内する。	・逃げ遅れた人が居たら消防署にすぐに知らせる ・総務部員は不要物が室内に侵入しないが確認する
5 (訓練・テスト及び評価・見直し)	① 毎年1回訓練を兼ねた消火テストを実施し、手順の妥当性や訓練の妥当性を確認する。 ② 火災発生時は迅速に火を止め、再燃防止のための手順を実施し、改善する。 ③ 手順書を改訂した場合は必要に応じて試行・訓練を行う。	消火訓練 毎年5～6月 訓練時の記録を保存 訓練時に消火器の有効期限が切れていないかを確認し、毎年1月に設備点検を受けている業者にも確認してもらう。 訓練：決められた手順通りにできるようにすること 試行：手順の適切であるが、機能は正常であるが決められた手順通りに行動できるか

<改訂記録>

版	改訂日	改訂内容・改訂理由
2	2020年2月1日	設備点検委託業者に消火器位置確認、使用可能かどうかの確認依頼をしたため
3	2020年11月20日	精査し、より現実性に沿った事項を補足した

保管：環境事務局

消火器の使い方を4ステップで解説

消火器の種類は粉末系・水系・ガス系の3つに大別される

□安全大会

年に一度、安全大会を開催しています。
今回の安全大会のテーマは、『「危ないよ」止める勇気と聴く姿勢 みんなで守る安全基本行動』
社員による現場紹介や講師をお招きして安全講話を行った。
現場での様々な危険について考え、常に安全意識を高く持ち、社員・協力会社の命を守るために声を掛け合いながら安全確認を徹底して今後も無事故無災害で遂行していく。



【前回の指示への取組結果】		
＜情 報＞		＜見直し・指示＞
◇自社を取り巻く環境問題の変化 （社会的情勢、利害関係者の要求等） 厳しい猛暑の中の現場作業に対する熱中症対策。 資材の高騰と材料不足により納品の遅れおよび工期延期。		◇環境経営方針 環境経営方針、環境保全への行動指針とも変更なしとし、引き続き順守していく。
◇環境経営目標・計画の達成状況 軽油による二酸化炭素排出量が押しなべて目標値を超えてしまっているため、目標値の設定の見直しが必要ではないかと思う。水道使用量も目標値を超えているため、さらなる削減方法の工夫が必要である。		◇環境経営目標・環境経営計画 軽油による二酸化炭素排出量の目標値を過去3年間の平均値として見直すよう指示をした。また、今回目標を達成できなかった産業廃棄物および水道水の削減においては、次年度の目標値を据え置きとする。
◇その他 毎月の定例会議での周知だけでなく、社員が目の付きやすい事務所のプリンター横に常設環境訓練コーナーを設置し、いつでも環境に関する資料やレポートを閲覧できるようにしており社内周知ができています。		◇実施体制他 本社倉庫の携行缶に混合ガソリンが保管されていたので、処分をするよう注意喚起と正しい保管方法の掲示をするよう指示をした。環境関連法規については、必要に応じて社員に共有する。
2023年度は事務所の産業廃棄物の削減と水道水の削減が未達となりました。倉庫にある不要材料の処分と事務所で仕事をする人数が増えた事による水道の使用頻度が起因すると考えます。また、倉庫に在庫する材料は概ね現場で余った余剰材料の引上げによる物が多いので、材料注文時に適正な注文を心がける事が産業廃棄物の削減と原価の削減に繋がる事なので引き続き社員へのアナウンスを継続していきます。水道使用に関しても、社内会議や表示によるアナウンスを継続し節水活動につとめていきます。合わせて使用頻度の関係でトラックに使用する軽油に関しては大幅に目標未達となりました。こちらは使用頻度を考慮した適正な目標値の再設定を行う事とします。電力消費量については昨年設置した太陽光発電システムにより大幅に削減する事ができましたがこちらも引き続き節電に取り組んで行きたいと考えます。これらの未達事項を改善し取組んでいく事が環境経営の継続に重要な事ととらえ引き続き改善に努めて行きたいと考えます。 今年度も社会情勢による資材価格の高騰が続いていますが、少しずつ受注金額にも反映される様になってきました。ただ、材料不足は前年に引き続き続いており工事進捗に影響を及ぼして工期延期を余儀なくされる事がありました。工期延期になる事により担当技術者の配置予定をしていた工事を受注できなくなる逸失が今後の課題となります。建設業の人手不足は日本全国の課題となってきましたが、我々もお客様からの工事依頼を断らざるを得ない状況が何件かありました。人員確保と社員教育に予算を割り当てる事は企業が継続する為に重要であり、その費用を捻出する為、余剰材料や余剰備品などを減らし、また水道光熱費を削減する事によって人員確保の為の費用に割り当て、人員増加による受注拡大を目指していきます。		

環境経営方針	☒ 変更なし	☐ 変更あり	⇒ 軽油による二酸化炭素排出量の目標値を過去3年間の平均値とする
環境経営目標・計画	☐ 変更なし	☒ 変更あり	
実施体制	☒ 変更なし	☐ 変更あり	